

平成 29 年 3 月改訂

神奈川県横浜川崎治水事務所
横浜市西区岡野 2 丁目 12-20 (横浜西合同庁舎内) 郵便番号 220-0073
電話 (045) 411-2500 (代表)

大岡川河川再生計画の全体構想

大岡川の流れを生かし、河川再生計画の5つの目標を達成するために、大岡川に対する「全体構想」を定めました。
全体構想は「施設や環境づくり」と、「大岡川の環境を維持保全するしくみづくり」の2つから構成されます。

施設や環境づくり

水質浄化施設の整備や水生生物を保全します。

生態系などの保全により、自然浄化機能を再生・補強して、川の水を美しく保つとともに水生生物を保全します。

右図のできるだけ多くの場所で展開します。

大岡川に関連する歴史資産を保全・活用します。

古い橋梁や護岸などの歴史資産や川沿いに点在する史跡などは、横浜を物語る大切な財産です。この財産を積極的に保全・活用することにより、魅力と個性ある川をつくります。

右図の印の場所で展開します。

大岡川の景観整備を行ないます。

川沿いの景観を美しく整え、水面・花見・緑陰・紅葉・魚影など河川の風情を楽しむ憩う場をつくります。川の魅力を高め、商業の活性化を図ります。

右図の印の場所で展開します。

親水施設・多目的棧橋・緊急時の荷揚げ場などを整備します。

子供が水と触れあいながら遊び学ぶ場所や、水上のレクリエーション活動の拠点をつくります。また、災害時の防災拠点としても利用できるように配慮した施設づくりを目指します。

右図の印の場所で展開します。

水辺の遊歩道を整備します。

美しく魅力的に生まれ変わる大岡川により多くの人々に訪れてもらうために、水辺の遊歩道を整備します。利便性や安全性にも配慮した生活動線としても活用します。

右図の印の場所で展開します。

大岡川の環境を維持保全するしくみづくり

- 大岡川の清掃美化活動や親水活動を行います。
- 大岡川の環境を考え、共有する場をつくります。
- 大岡川を舞台とした教育活動を行ないます。
- 沿川のまちづくりに関するガイドラインをつくります。
- 大岡川の水面や施設利用のルールをつくります。



既存施設と市街地プロジェクト			
都市拠点整備		公園緑地	
商店街		歩行者動線	



拠点整備の紹介

◎拠点整備地区の計画と状況

大岡川再生計画では、左図ので示すような、大きく8つの地区において拠点整備を行う構想が計画されています。これら拠点整備は、大岡川再生計画の目標を実現するために行われるものであり、水に憩うだけでなく、歴史や文化を守りつつ、沿川地域と一体となって大岡川の環境整備・管理を進めていくことをねらいとしています。

拠点整備は、「北仲通地区（大岡川夢ロード）」「黄金町駅周辺地区（大岡川桜橋）」「蒔田公園地区（ふれあいアクアパーク）」「日ノ出町地区」で順次展開しています。

北仲通地区「大岡川夢ロード」（横浜市中区）
延長約240m、面積約2,800m²、工事期間 平成11～16年度

大岡川河口部の両岸に整備され、横浜を代表する観光地のみならず、21地区を望むことができ、多くの人々が訪れる場所です。明治時代の旧護岸や荷揚げ場等を修復・保全するなど、歴史を感じることができる場所としても整備されています。両岸に整備されたボードデッキを利用して水辺を散策することができ、ランドマークタワーや横浜港の眺望を楽しむことができます。



蒔田公園地区「ふれあいアクアパーク」（横浜市中区）
延長約50m、面積約1,400m²、工事期間 平成18～21年度

大岡川と中村川の分岐点に位置する蒔田公園の一角に整備された親水施設です。蒔田公園と一体化した開放的な空間で、ボードデッキから水辺に親しむのみでなく、災害時には防災拠点として様々な利用が可能な場所となっています。潮の干満により水深が変わる階段護岸では、季節に応じた水生生物等を観察でき、地域の子供たちの水辺環境学習の場にもなっています。地域のお祭りや文化的なイベント、カヌー体験教室など、地域コミュニティの創出にも活用されています。



黄金町駅周辺地区「大岡川桜橋」（横浜市中区）
延長約36m、面積約126m²、工事期間 平成17～18年度

地域住民からの積極的な計画立案により、整備された施設です。船着場としての機能をもたせ、カヌーやEボートが利用しやすい場所となっています。また、大岡川の桜まつりでの利用を始め、大岡川を舞台とした様々な催しに活用されることにより、大岡川の環境を考え、共有することにも貢献しています。今後も施設を利用した防災活動や、教育活動、地域活性活動の促進が期待されます。



日ノ出町地区（横浜市中区）
延長約40m、面積約136m²、工事期間 平成25～26年度

京急日ノ出町駅から長者橋へむかう橋際付近の親水施設です。日ノ出町の駅前再開発との一体的な整備を計画することにより、地域の活性化やまちの賑わい創出にも効果が期待される親水施設です。浮桟橋を設置することにより、親水性の向上はもちろん、水上交通に利用しやすい施設となっています。また、防災拠点としての機能も備えており、災害時には中央広場への軽車両の進入が可能です。さらに、船舶等による物資運搬にも配慮した施設です。



大岡川の自然

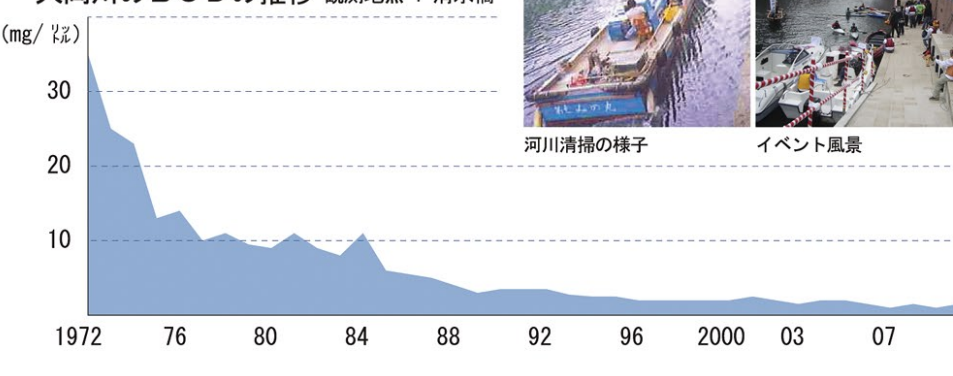
◎きれいになりつつある大岡川の水質

- ・BOD（生物化学的酸素要求量・水の汚れ具合を示す指標）の測定結果を見ると、近年大岡川のBODが5mg/ℓを超えることはなく、全体的に有機汚濁の影響が少ないことがわかります。
- ・大岡川では、昭和50年度（下水道普及率27%時）には13mg/ℓであったBODは、平成22年度（下水道普及率99.8%時）には2.1mg/ℓに低下しています。
- ・このデータからも分かるように、都市河川である大岡川水系の水質は、近年急速に改善されており、川を舞台としたイベントも開催されるようになってきました。

BODの達成目標（横浜市内）

8mg/ℓ以下ー川辺の散歩に適している
5mg/ℓ以下ー釣りポイント遊びに適している
3mg/ℓ以下ー水遊びに適している

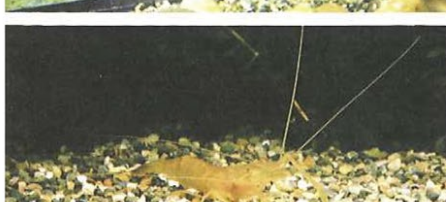
大岡川のBODの推移 観測地点：清水橋



◎大岡川に生きる生物たち

- ・中流域～下流域に魚類の生息は少ないようですが、マハゼ等の周縁性魚(※)の生息は多く見られます。これらの理由として、感潮域での水質や底質等の生息環境が良くなってきたことのほか、河川水量の減少により海水が上流域まで遡上するようになってきたために川への移動、分散が容易になってきたことも考えられます。
- ・また、アブラハヤ等の「きれいな水域」で生息する魚も数匹確認されています。
- ・また、ギンブナなどの魚やテナガエビ等の底生動物や、ワカメなども多数確認されています。

大岡川の生物写真



※周縁性魚：河川の下流から河口、海の沿岸域に生息する魚のこと。

資料：神奈川県水産総合研究所内水面試験場